

1 単元名 心のつぶやきを考える―「少年の日の思い出」

2 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕言葉・漢字(1)ウ
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C 読む(1)エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C 読む(1)オ
- (4) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 基盤

- (1) 本単元の題材「少年の日の思い出」は、少年の心の揺れや葛藤を精緻な文体でつなぎとめた作品であると言える。さらに、二人の少年の心情をなぞるとともに、登場人物の考え方、感じ方の違いや、また互いをどう見ているか、その見方の違いをも考えることができる教材である。

少年時代にちょう集めのとりこになってしまった「僕」は、その熱情ゆえに隣家の「模範少年」エーミールのちょうを盗んでしまい、不幸にもそれを壊してしまう。しかも犯してしまった罪はエーミールに対しては償うことができず、「僕」は自らの手で収集したちょうを粉々に押しつぶしてしまう。その後味の悪い結末は「僕」の心に暗い影を落としている。それぞれの場面において、展開に沿って読み進め、描写から登場人物の相互の関係や心情の変化を読み取っていくことで、生徒たちが様々な価値観に出合うとが期待される。

また、誰が・誰に・何を・どのように語っているのかを捉えることは、物語や小説を読み取る際に重要な観点の一つである。この作品の場合、「私」が読者に現在の状況を語る前半と、「客＝僕」が自身の少年時代を「私」に語る後半に分かれている。語り手の位置づけを明らかにし、その効果について考えることのできる作品である。

- (2) 本学級の生徒は、『星の花が降るころに……』で、物語の登場人物の言動から心情を読み取るという学習活動を経験した。主人公の「私」の目線で描かれているこの物語は、「私」の気持ちは細やかに表現されているが、「私」をとりまく登場人物の心情は一切描かれていない。生徒は、彼らの言動から心情を想像し、言葉で表し、他者が分かるように説明し共有することで、読みを深めた。

本校国語科では、言葉を単なる知識として獲得するだけでなく、言葉の力を使って自分の思考を広げ、深めることができ、適切に表出することができる主体的な言葉の使い手となることを願い、授業づくりを進めている。そのために、子どもたち自身が、言葉のもつ良さや面白さを感じたり、言葉を用いて思考することの楽しさを味わったりする単元を構成することを目指してきた。それはつまり、単元の中で、子どもたちが言葉にこだわって考えられる場面が設定されているということである。

また、自分の考えをもったときに、それを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて自分のそれと比べてみたりすることが、子どもたちのより良い考えを作り上げていくことにつながると考える。こうした他者との学び合いを繰り返す中で、個の思考の変容や深化が期待できると考える。

- (3) 今回はこの作品を扱う授業では定番化されているような「語り手を換えて書き換える」という学習活動は行わない。

「僕」が無断で他人の家に侵入し、盗み、壊したという事実を客観的に捉えるよりも、「正しいこと」「悪いこと」は頭では分かっているのに、制御不能になるほどの熱情と愛をちよんに対して持っていた「僕」。彼は読者である生徒と同世代である。何かに熱中すると我を忘れて没頭してしまう主人公の様子を大事に捉えながら、「僕」の心情を丁寧になぞり、読み深めることができる方法を模索した。言葉にこだわって読むことは、国語科として重要視しているところでもある。そこで、『大村はま国語教室第4巻』を参考にして、大村はまの実践から「心のつぶやき」を切り口にできないかと考えた。「心のことばを想像しよう」という活動である。

今まで、描写から心情を読ませる場合、ダイレクトに読ませる(=説明させる)ことがほとんどであったのではないだろうか。しかし、読書経験を含めた様々な経験自体が少ない生徒の場合には、それがなかなか難しい場合もあると考えられる。そこで、「心のつぶやき」の活動を「想像」の力を使って設定する。生徒それぞれが、登場人物の「心のつぶやき」を想像して自分の言葉で表現し、それらを本文に合体させるという活動である。その活動を、場面を区切って進めていき、グループで共有することで、生徒は様々な「心のつぶやき」を読み合うことができる。

また、生徒がピックアップした箇所とそこで想像した「心のつぶやき」が客観的に分かるように、記録用のカードの使用を試みる。最終的には、カードに書かれた個人の「心のつぶやき」を合わせて、グループ全員の「心のつぶやき」が盛り込まれた「少年の日の思い出」が完成していく。さらに、それを読み合い、味わって感想を伝え合うことで、描写から心情を読み取ること、そしてそれを説明することの段階がより細かくなり、生徒それぞれが描写から読み取ることの意味をつかむことができるようにしたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	①文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。C 読む(1)エ ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。C 読む(1)オ	物語を読み、登場人物の心情を根拠をもって考え、それを表現しようとしている。

5 指導と評価の計画

時間	○主な学習活動	◇評価規準 ◆評価方法
1	○「思い出」について考える。 ・冒頭(「客は」～「次のように語った」までを教師が朗読する。 ・登場人物(人数)の確認(私と、私の末の男の子、「客」=「僕」=「友人」=「彼」) ・冒頭部は一人称の語り、視点も一人称視点であることを理解する。 ・時間に余裕があれば、(もし見つけられれば)美しい蝶の動画などを見る。	
2	○ちよんへの関心(自分の趣味についての記述)について読み取る。 ・国木田独歩「絵のかなしみ」の朗読をする。 ・「心のつぶやき」の書き方の例(大村はま)を手引きとして学習活動の方法を理解する。 ・活動の説明を元に、心のつぶやきを考える。 ・今日の「私」は、昨日の「客」=「僕」=「友人」=「彼」と同一人物であることの確認。(友人の一人語りに切り替わることは注意する。)	◇知・技 ◆カード

	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない語彙は調べる。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○少年の登場(対人物の登場)について読み取る。 ・2時間目のカードを見返して、本文に補いながら読んでみる。 ・類義語を手引きとして使用してもよい。 ・班で補った音読活動をする。 ・「あるとき、僕は、僕らのところでは珍しい」～「手出しをしてやめてしまう」と。」を読む。 ・今日のつぶやき・・・全員共通課題(熱情)と(情熱)のふたパターンで、つぶやきを考えてみる。余裕のある生徒は、考えられない生徒は、そのほかの部分についてのつぶやきを考えてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇主体的に学習に取り組む態度 ◆カード
4	<ul style="list-style-type: none"> ○エーメールに注目して読み取る。 ・3時間目のカードを見返して「熱情」と「情熱」との違いについて考える。 ・「エーメールがこの不思議なちょうを持っているということを聞くと」から、「喜んで投げ出したろう。」までを音読する。 ・大村の記述例に再度着目させたのち、時間をとって心をつぶやきを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇思・判・表 ① ◆カード
5	<ul style="list-style-type: none"> ○母親の登場の場面を読み取る。 ・「悲しい気持ちで」から「指で粉々に押しつぶしてしまった。」までを音読する。 ・一人一人が心をつぶやきを書きたい文を選び、記述する。 	
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの「少年の日の思い出」心をつぶやきを補って音読をする ・心をつぶやきを補ってプリント化したものをグループごとに音読をする。 ・音読は、ある特定の班(一班)が、別の特定の班(別の一班)の音読を聞くようにする。なぜそうしたのか、よりも、それによって、何が伝わってきたか、話し手が判断するのではなく、聞き手が判断し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇思・判・表 ② ◆行動観察ノート

6 本時の展開

(1) 目標

様々な班の「心をつぶやき」が補われた「少年の日の思い出」の音読を聞き、どのようなことが伝わってきたかを自分の言葉で表すことができる。

(2) 展開

学習場面と生徒の取り組み	教師の支援と評価
1. 前時のカードと、カードの「心をつぶやき」が補われた自分のグループの「少年の日の思い出」のプリントを見ながら、これまでの活動を確認した上で、本時の学習活動について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループに「少年の日の思い出」のプリントを配布する。 ・本時はそれをグループごとに音読し、聞き合った後で感想を書くことを伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「心をつぶやき」が補われた「少年の日の思い出」を聞き、伝わってきたことを表現する。 </div>	
2. 各自で音読するところを分担し、練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「地の文」「僕」「エーメール」「母」役をそれぞれ決める。 ・読み方や語句の意味を確認したいところがあれば確認をして音読できるように準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の分担をするとき、分量の差が出ないように配慮する。(記述量が少なかった生徒は、音読する量で調整する。) ・これまでの五時間で読み方や意味を取り上げて確認した語句があることに触れる。

<p>3. 他のグループに対して、自分のグループの「少年の日の思い出」の音読を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> •他のグループの音読を聴く。ローテーションをして、複数のグループで音読し合い、聞き合う。 <p>4. どのようなことが伝わってきたかを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> •「僕」がご飯を食べることも忘れてちょう集めに熱中する様子が「お腹が空くことなんて自覚する暇もない」という言葉から伝わってきた。 •エーミールの部屋に入る前に、「僕」が平常心が保てておらず、いつもの「僕」ではなかったことが伝わった。 •「僕」がちょうを捕まえる前に、どうしても捕まえてやろうと思っでドキドキしていることが伝わった。 •お手伝いさんとすれ違ったときの「これは夢ではない、現実なんだ。」というつぶやきから、「僕」が自分のしてしまったことが信じられず、かなり動揺していることが伝わった。 •「僕」がちょうをにぎりつぶしているとき、本文には「僕」の気持ちは書かれていないのだけれど、○班は「僕はちょうが大好きだった。ちょうを集めることに全てをそそいだ。ただそれだけでよかったのに。僕は一番大好きなちょうに対して、一番してはいけないことをしてしまったんだ。」と補っていた。「僕」が後悔してもしきれないほどの苦しみを抱えていることが伝わった。 <p>5. 他の人の感想を聞いて、ふりかえりを記入する。</p> <p>本時の学習活動で、新たに発見したことや自分の中で変化したこと、気付いたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> •ちょうを盗んだことをただ後悔しているのではなく、自分の最汚されたくないものを自ら汚したことに對する償いの気持ちが分かったような気がした。 	<ul style="list-style-type: none"> •音読をするときには、言葉一つ一つが伝わるような速さで読むことを指示する。 •音読を聴くときには、どのようなことが伝わってきたかを考えながら聴くことを指示し、必要があればメモするよう伝える。 •感想を書くのは、どの場面のどのつぶやきに対してでもよいことを伝える。 •もしも確認したい言葉があれば、その班のところに行って、再度一つ一つの言葉を見せてもらってもよいという指示を出し、「なんとなくの印象」ではなく、具体的な言葉のつぶやきから伝わってきたことを書くよう促す。 •感想を書きだせない生徒に対して、まずどの班が印象的であったかを問い、その班の「少年の日の思い出」を見せながら、どの部分でどう感じたのかを一緒に振り返る。 •←のように、本文を読んだだけでは伝わらなかったことが、「心のつぶやき」が補われた「少年の日の思い出」からは伝わる場合もあることを説明し、もしもそのような体験をしたら、それを書くことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>音読を聴き、文章を読んで伝わってきたことについて自分の言葉で表すことができる。〔思考力判断力表現力等〕C 読む(1)オ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> •何人かの生徒の感想を教室全体で共有し、ふりかえりを記入するよう指示する。「心のつぶやき」を交えた「少年の日の思い出」を聴き合ったことで発見したことや、今までの読みと変化したこと、気付いたことなどを書くよう伝える。
---	--

7. 評価

A: 十分満足できると判断される状況	B: 概ね満足できると判断される状況	C: 支援を要する状況への手立て
<p>心のつぶやきが補われていることでのようななどのようなことが伝わってきたかを自分の言葉で書いた上で、抽象化している。</p>	<p>心のつぶやきが補われていることでのようななどのようなことが伝わってきたかを自分の言葉(本文に使われていなかった語句を取り入れて)書いている。</p> <p>Aになるための手立て</p> <p>「一番してはいけないことをしてしまった」=悔やんでも悔やみきれない苦しみ…このような例をだして、抽象化のイメージを持たせる。</p>	<p>感想を書きだせない生徒や、具体的に表現できない生徒に対して、最も印象深い班の作品と一緒に読み、心のつぶやきが補われている部分を確認する。</p> <p>どのようなことを感じたかを問いながら、生徒の心の中にある思いを言葉にできるよう支援する。</p>

